



知床の森から



地元斜里高校へ出前講座

○ 平成23年11月 第134号

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東番外地(国設知床野営場内)
電話 0152-24-3466 FAX 0152-24-3477
ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/siretoko/index.html>

11月14日(月)、16日(水)、17日(木)と、地元の北海道斜里高等学校からのオファーを受けて、草木染めの出前講座を行ってきました。14日は1年生34名、16日は2・3年生15名、17日は2・3年生24名で各日2時間、延べ73名の授業です。

草木染めの工程については、素材を煮つめて染液を作るところから始め、しぼり入れ・染色・媒染・乾燥という一連の工程を体験してもらいました。しぼり入れの際にはふざけていた生徒も、染め上がった模様を目にした時にはちょっとした感動を味わえた声も聞かれ、美術の授業としてはまずまずの成果だったのではないのでしょうか。



このほか、染色の待ち時間には当センターの紹介や知床で見られるエゾシカによる森林被害についての話をしました。当センターの草木染め体験(次ページ参照)では、近隣の森林内でよく見られるハンゴンソウを今年度から

染液のバリエーションに加えています。この草本は、エゾシカが好まないことから従来あったササ等に替わってあちこちで繁茂するようになってきました。町内の森林で今どんなことが起こっているかを考えるきっかけになればと思い、3日間とも染液の素材として使いました。こうした意図がどれだけ伝わったかにわかには分かりませんが、きっと何年か後にフッと思い出し、何か行動してくれることでしょう。



同校は知床世界自然遺産という地域の特色を活かした環境教育の実践に取り組んでおり、その点が評価されて本年1月にユネスコスクールの加盟を承認されています。知床の森林をフィールドとして活動している当センターとしては、今後とも積極的に同校の環境教育をお手伝いしていきたいと考えています。

最新イベント実施報告

【第110回レクリエーションin知床「秋景の知床・紅葉鑑賞と種まき」】

平成23年10月8日(土)、知床の森を未来に伝える苗木づくりとしての「種まき」と、紅葉鑑賞の森林散策とツリーイングを通して森に親しむイベントを開催しました(参加者23名)。



残念ながら紅葉の見頃には少し早いようでしたが、当日早朝は開催が危ぶまれるほどの荒天だった空模様も出発後間もなく回復し、冬支度をする森林の様子を楽しめたと思います。その後、「知床の森 支援苗圃」(財)日本森林林業振興会旭川支部北見支所開設)でミズナラのドングリを一人10粒程度まきました。数は少なくとも、未来の



知床の森の種を植えたという充実感が伺えました。昼食では用意したキノコ汁に舌鼓を打った後、午後からは道東ツリーイングクラブの指導により樹齢およそ300年、高さ30m以上のカツラの木に登りました。この他、秋の爽りの観察や、カラフトマサヤサケの遡上の様子を観察し森と海とのつながりについての理解を深めていただきました。

内容盛りだくさんの一日でしたが、秋の知床の森林を堪能できたのではないのでしょうか。

【ロングランイベント「秋色に染めよう」草木染め体験】

平成23年10月6日(木)から11月18日(金)まで草木染め体験を開催しました。

染める生地としては前年のハンカチに加えマイバック(A4サイズ)を用意しました。染色の素材は、知床の森林から集めたミズナラのドングリの帽子(殻斗)、イタヤカエデの落ち葉、倒れたイチイの枝、ハンゴンソウ(草本類)の葉です。それぞれ焦げ茶色、黄土色、ピンクを帯びた茶色、濃黄色に染まります。模様付けの工程では割り箸やビー玉などを包んだ生地を輪ゴムで絞ってもらいますが、染色後、思いもよらぬ模様染め上がることも多々あり、参加者はわくわくしながら草木染めを楽しんでいました。



ところで、今回利用したハンゴンソウは、知床の森林でエゾシカが食べないために繁茂するようになった草本類の一つです。草木染めを楽しみながらエゾシカによる森林被害について考えるきっかけを提供できればとの思いから用意しました。

開催期間を通して、観光客や地元の方など46名の方に参加いただきました。

【今後のイベント案内】

知床森林センターでは12月下旬までの間に2つのリース作りのイベントを実施します!



ヤマブドウのつるを用いたシンプルな特製リースとトドマツの葉を贅沢に使用したクリスマスリース。

開催日時等については本紙最終ページをご覧ください。

国際森林年イベントを振り返って

今年も残すところあと一ヶ月余りとなりました。同時に年明けから始まった国際森林年も終了することになります。知床森林センターでは、「森を歩く」というわが国のテーマを知床の森で実践するものとして下記のイベントを行いました。

2月ー第104回森林レクリエーションin知床「冬ならではの!!静寂の森を歩くスキーで散策しよう」(2月9日)

3月ー第105回森林レクリエーションin知床「森林散策をしながら知床を撮ろう〜フレペの滝周辺〜」(3月5日)

6月ーコープさっぽろ共催「知床の森の散策と楽しいシイタケほだ木づくり」(6月6日)

第106、107回森林レクリエーションin知床「春の知床森林散策〜幻のポンホロ沼〜」
(6月8日、11日)

7月ー第108回森林レクリエーションin知床「樹木医と歩く知床の森林」(7月9日)

9月ー第109回森林レクリエーションin知床「知床らうすで植樹とこんぶ加工体験」

(9月18日)

10月ー第110回森林レクリエーションin知床「秋景の知床・紅葉鑑賞と種まき」(10月8日)



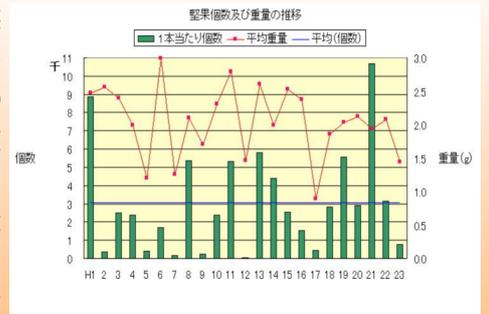
「秋景の知床・紅葉鑑賞と種まき」での一コマ

調査業務報告

【ミズナラ堅果結実調査～今年は凶作です。】

今年のミズナラ堅果結実調査が終了しました。本調査は平成元年より毎年秋に行っており、今年で23回目になります。1本のミズナラに対してシートトラップ(1m×1m)という仕掛けを3つ設置し、堅果(ドングリ)の個数や重量等を計測するというものです。今年は815個の堅果が採れ、樹冠の広がりをもとに1本当たりの数に換算すると763個、過去22年間の平均(3,058個)を大きく下回る数になりました。また堅果1個当たりの平均重量は1.43gで、こちらも過去の平均(2.07g)を下回りました。

札幌市近郊で「熊の出没」が大騒ぎになっています。熊はドングリだけを食べている訳ではないので一概には言えませんが、今年のドングリの凶作も全くの無関係ではないでしょう。



【択伐跡地の林分推移調査～5年前と比べてみると…】

この度「択伐跡地の林分推移調査」を行いました。これは昭和62年に択伐を行った跡地に生じた孔状面における林冠形成や更新状況の推移を調べるため、プロット内の材積、林冠疎密度、下層植生、稚樹・幼樹の本数等を調査するもので、5年ごとに行っています。

右の写真はほぼ同じ場所を撮影したのですが、林床を比べてみると、優占種がササからエゾユズリハになっています。これはエゾシカが食べない植物とされ、エゾシカの植生への影響が見られるようです。



平成18年(林床にはササが広がっています。)



平成23年(林床がエゾユズリハに変わっています)

他の調査結果については、後日ホームページや知床ボランティア活動施設の展示にて報告します。

地域と連携した取組み

【オシンコシンの森で自然体験】

10月23日(日)、斜里町公民館ゆめホール知床主催「ゆめクラブ 森と遊ぼう」の活動として、知床を代表する森「オシンコシンの森」に斜里町内の子どもたち8名がやってきました。

当日は小雨が降る生憎の天気でしたが、子どもたちは元気いっぱい知床の森に到着しました。森に着くなり、カエルやミミズを見つけたり草木に触ったりと、こ

らの不安を吹き飛ばすほどの元気でした。森の中では、子ども全員が手をつないでも届かないほどの大きなカツラの木に出会ったり、落ち葉をかき分けて土の中の生きものを観察したり、キツツキが木に開けた穴を覗いてみたり、また、木の下で雨宿りやカエルに触るなどの、市街地ではなかなかできない体験をしながら、楽しく歩きました。およそ1時間半ほどの森林散策でしたが、子どもたちは森での楽しい思い出がたくさんできたことでしょう。



【第5回知床インフォメーションスタッフ交流会】

10月25日(火)、第5回知床インフォメーションスタッフ交流会の一行が当センターを訪れました。これは、斜里町・羅臼町の区分を捨象した「知床」の名の下に、両町で観光の第一線に立つスタッフが相互の情報交換・共有を目的として集まったもので、平成21年の第1回から数えて今回で第5回となります。当センターへは雨(荒)天時の代替プログラム提供を期待して訪問したもので、当センターからは、館内説明や提供プログラムの説明を行った後、当日開催中のロングランイベント「草木染め」を実際に体験してもらいました。



知床世界自然遺産地域をメインフィールドとして活動している当センターにとって、本交流会のような取り組みは大いに歓迎するところです。現在、羅臼町との最短ルートである知床横断道路が冬期閉鎖となり両町間の往来は難しくなっていますが、来春の開通後に向けて、地域ニーズに即した企画を考えていきたいと思っております。

知床 は今

今年度上期の知床の観光客数は前年同期に比べ微減だったそうですが、知床横断道路が冬季通行止めとなった(11月7日)以降、観光船の運航も終了しているにも拘らずウトロ温泉のホテルの明かりがそこそこ灯されています。ということは、今年はまだ観光客がそこそこ滞在しているということです。

そこで沸々と疑問。この時期に知床を訪れている方々は、知床峠を越えることもできず、観光船にも乗れず、流氷にはまだ早く、一体何をして過ごし、何を思い出としようとしているのか。

そうか、知床森林センターで開催中のロングランイベントに参加して、エコバックを草木染して持ち帰るのか。いや、森の恵みを使ったリースを作って持ち帰るのか。やっぱり、道産材で箸を作って……

今年の森林センター入館者は、10月末で既に1万2千人を超えました(前年比60%増)。勿論、前述の方々もいらっしゃいますが、夏季における開館時間の延長が大幅増の一番の要因です。来館者の倍増目指して、間もなく訪れるであろう流氷の接岸期に向け、新たな呼び込みプランを思案中の昨今です。(ヒ)



ボランティア活動施設から

知床ボランティア活動施設の入口に立つと、中から低音のナレーションが聞こえてきます。そして一歩中に入ると、それが大型テレビが発するものと分かります。

当施設では「世界遺産シリーズ 知床 海・川・森の物語」(林野庁監修)と題したDVDを常時上映しております。「流氷が押し寄せる海岸線」「1500m級の火山群である知床連山」「山々を覆う豊かな森」等のコンテンツからなり、知床半島の成り立ちや知床の森の主ヒグマや天然記念物であるシマフクロウ等の動植物が息息する多様で原生的な環境の紹介、そしてそれらを保全するための林野庁等の取組みを紹介しています。

このほか、知床ボランティア活動施設においてはエゾシカ被害木(実物)や木と直に触れ合えるコーナーなども設置してあります。

ウトロでは11月15日に初雪を迎えました。気温が零下になる日も間近です。屋外での実体験が困難なこの時期、知床森林センターで知床の森を疑似体験しに来ませんか?(ナ)



11~12月のイベントのお知らせ

詳しくは知床森林センターHPかお電話でご確認下さい。

実施月日	イベント名	場所・定員等	申し込み期間等
12月10日(土)	X'masリース作り&TeaParty ~トドマツの葉で作るリースと ご当地スイーツで午後のひと時を~	知床森林センター 定員20名、参加費1,200円 (お茶・お茶菓子つき)	12月5日(月)までお電話でお申し込み下さい(先着順)。
11月24日(木) ~12月25日(日)	ロングランイベント 知床の森から贈りもの ~特製リースづくり~	知床森林センター 500円/1台	未就学児は保護者同伴でご参加下さい。

次回は平成24年1月下旬の発行予定です。

☆ 知床森林センターホームページ。「ブログ・知床の四季」では旬な知床情報をお届けしています!
→ <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/siretoko/index.html>



この広報誌は道産間伐材を使用しています。